

第 97 回厚生科学審議会科学技術部会 議事概要

1. 審議開始日 平成 28 年 10 月 11 日
2. 議決日 平成 28 年 10 月 28 日
3. 方法 持ち回り審議による。
4. 委員 相澤英孝、井伊久美子、石原理、磯部光章、今村定臣、大澤眞木子、川越厚、菊池京子、桐野高明、倉根一郎、塩見美喜子、武見ゆかり、玉腰暁子、手代木功、中村耕三、西島正弘、野村由美子、橋本信夫、福井次矢、宮田満、門田守人、横川拓哉
(五十音順、敬称略)
5. 議題
平成 28 年度厚生労働科学研究費補助金公募研究事業（四次）について
6. 審議結果
別紙のような質疑及び回答の結果、資料 1－3 の公募要項（案）について、一部修正の上、了承された。

平成28年度厚生労働科学研究費補助金公募要項(四次)(案)に対する質問内容及び回答

研究事業名	研究課題	質問内容	回答
健やか次世代成育総合研究事業	突然の説明困難な小児死亡事例に関する登録・検証システムの確立に向けた実現可能性の検証に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は、モデル的に限定的な地域で行うのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今年度は主として全国で実施可能な情報収集のための調査表の作成、登録する病態の分類方法及び予防可能性の評価基準の作成を実施予定としています。並行して来年度以降モデル的に実施可能な地域との調整を行う予定です。
難治性疾患政策研究事業	横断的政策研究分野	<ul style="list-style-type: none"> p36の(5)採択条件の2ポツ目「2-1の領域別基盤研究分野の関連研究班との連携は必須である。班会議の合同開催等により連携し、研究内容や成果の共有を図ること。」は、「C 小児慢性特定疾病児童等自立支援員による相談支援に関する研究」との整合が取れないのではないかと。具体的にはどのように進めるのか。 	<ul style="list-style-type: none"> Cの研究においても、疾病毎の生活実態調査や支援のニーズの把握を行うなど、領域別研究班との連携が必要と考えておりますが、ご指摘を踏まえ、「特に指定難病制度を広く扱う研究については、2-1の領域別基盤研究分野の関連研究班との連携は必須である。班会議の合同開催等により連携し、研究内容や成果の共有を図ること。」に修正します。
障害者政策総合研究事業	災害派遣精神医療チーム(DPAT)の機能強化に関する研究	<ul style="list-style-type: none"> 今年度分の研究費は、主に何に使用するのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 災害時における災害派遣精神医療チーム同士及び事務局間の情報共有を円滑にするために、ICTを活用した情報共有の手法を研究する必要があります。今年度は、プロトタイプシステムの構築を通じて、効果的かつ効率的な情報共有の手法の研究に取り組む必要があり、一定の研究費を必要としています。
		<ul style="list-style-type: none"> なぜ研究予定期間として3年間を要するのか。 	<ul style="list-style-type: none"> 今後起こりうる新たな災害への対応も含めて研究する必要があり、3年間の期間を要します。なお、各年度毎に目標を設定し、速やかに社会実装していきます。